

堂本彰夫

ID 問答

新たに始まった、我（ら？）が「精神こころの放浪たび」?!

（総集版 2）

令和 3 年 11 月

○「総集版2」の刊行にあたって

「東シナ海眺望記」、「じのん逍遥記」と続いた「私の精神こころの放浪たび」は、一つの区切りを迎え、その後、それを引き継いだ形で、「堂本彰夫 ID 問答 新たに始まった、我（ら？）が『精神こころの放浪たび』?!」と題して、次なるスタートを切っていた。そして、令和3年1月に、その「総集版1」を刊行した。本「総集版2」は、その続編である。これまで同様、我が「岳陽舎」のHP上にアップしてきたものであるが、改めて、楽しく？ご愛顧いただければ幸いである！

堂本 彰夫

※上記ホームページの URL 及びメール・アドレスは、下記の通りです。
いつでも、気軽に、ご覧下さい！そして、いつでもご連絡、お便りいただければ、本当に嬉しい限りです！

ホームページの URL⇒<http://www.gakuyou.jp>

メール・アドレス ⇒gakuyou17@outlook.jp

目 次

- ⑳ 「緊急事態宣言」！第1回との違いは?!
- ㉑ 「未必の故意」というものがある！今回、これに該当することがある?!
- ㉒ 近年の「メッセージ性」の弱さ（曖昧さ?）?!「頑張れ！」なんかは、まさにその典型?!
- ㉓ 初老の（孤独な?）ギタリスト?それを眺める、同じく初老の（孤独な?）ロマンチスト?!
- ㉔ それぞれの「日常」にある?「ビッフォーbefore」「ウィズwith」「アフターafter」?!
- ㉕ 政策における「最適解」?!「トップリーダー」の役割は、可能な限りそれに近づけること?!
- ㉖ 巡り巡って?結局は、「統一性と多様性」の問題（テーマ）に戻ってきてしまった?!
- ㉗ 「どうしようもないこと?」に、どう向き合っていけばよいのか?!最後の60代を迎えて!
- ㉘ 改めて、「社会のどうしようもないこと?」に思う?!いつの世も、そういうことばかり?!
- ㉙ 「報い」について考える?!「因果応報」は、「生きとし生けるもの」の宿命ではあるが?!
- ㉚ これも、一種の「オオカミ少年効果」と言えるかも?!「緊急事態宣言」の陥穽?!

- ③② 「グラデーション（現実？）」の中での、「統一性」と「多様性」の意味?!
- ③③ 「(新型コロナ) ウィルス」のメッセージ?!そこには、「二重の警告の意味」がある?!
- ③④ このまま、一つの「区切り」まで、ずるずるといくのか?否、やはり何とかしなければ?!
- ③⑤ コロナ禍による鬱屈だけではない!「古代史の旅」の頓挫?!ただし、そちらは「天の報い」?!
- ③⑥ 「インフルエンサー」??指導者（リーダー）でもない?「カリスマ」でもない?!
- ③⑦ 「正しい選択」とは、沢山の「正しいこと?」のせめぎ合いから生まれてくるもの?!
- ③⑧ 一度は言っておきたい?私（達?）の本音（告白?）?!まずは、「教育」と「学習」の関係について!
- ③⑨ 一度は言っておきたい?私（達?）の本音（告白?）?!次なるは、私（達?）が憧れる「教育者」?!
- ③⑩ 最後の問答?!「沖縄」をどう思うか?だが、これは、まだまだ「総括?」とはならない?!

②「緊急事態宣言」！第1回目との違いは?!

I：新年が明けて、何か、元気の出るような話題がないものか、いろいろ考えてはいるのですが、どうも、そうはいかない日々が続いています?!

D：まさに、それは、件の新型コロナウイルス感染の増大のせいでしょうが、沈静化どころか、感染爆発といった様相となっていますからね！本当に、いつまで続くのでしょうかね？

I：まったく、その通りなのですが、改めて、ここでの問答、どうしましょうかね？

D：いやいや、実はそういうことも想定して、この問答を行っているわけですから、何とか続けていきましょうよ！たとえ、私的な、そして独善的な問答となっているとしても、ある意味、自分達の生きている証しとして、これを始めているわけですから、それはそれでいいのではないのでしょうか?!

I：そうですね！他者が、どんな風に受け止めても、まずは、自分達が納得すればいいのですよね?!

D：そういうことです！あなたはともかく、他ならぬ私は、これまでも、ずっとそういうスタンスで生きてきたわけですから、何をいまさらということでもあります！

I：それでは、ということでもないのですが、直接は、今回の新型コロナウイルス感染拡大（爆発？）の状況を見ながら思うことですが、どうして社会（人間）は、同じような過ち？を繰り返すのでしょうかね？過日、第2回目の「緊急事態宣言」が発出されたわけですが、その宣言による規制（お願い？）が、第1回目のそれと、ほとんど同じである（それも、かなり緩い？）と思われるのですが、そこに、どのような反省、あるいはどのような工夫（新しい措置？）があるのでしょうか？

D：「三密」の徹底とか、「不要不急の外出」の抑制とか、そして、業務の「時短」とか、「テレワーク」の推奨とかということでしょうが、それはそれで、第1回目の時に、それなりの成果を挙げたということで、今回も、それでいこうということではないですか?!

I : 確かに、そうでしょうが、実は、そのことだけでは、十分な対応とはならなかった？だから、その後の感染持続、そして再拡大を招いた？そういうことではなかったのでしょうか?!

D : そうとも言えるのですが、結局は、「経済」と「医療 (命)」の「現実的なバランス」を採らざるを得なかった！今回も、実は、それが根底にある?!だから、同じように見える?!したがって、同じ過ちとも言える？そういうことですよ?!

I : そういうことですが、何故、それ以上のことが出来ないのかということもありますね！大々的に「PCR検査」を行うしくみづくりとか、「病院」や「保健所」等の医療・検査体制の拡充とかといったことですが、残念ながら、そうした部分の抜本的な転換がなされていない?!

D : 確かにね！それなりに、そういう努力はなされてきたとは言えると思いますが、私達の目には、そうした顕著な変化 (改善) は見えませんよね?!

I : だから、今回も、それなりに沈静化はしていくのですが、いわゆる「終息」とはいかない?!そういうことになりますよね？頼みの「特効治療薬 (アビガン) 等」のその後や、ワクチン接種のことも、話にはなっていますが、それについても、遅々たる歩みとなっているようですね？一体、これから、どうなっていくのでしょうか？

D : 最終的には、おそらくそういうことになると思いますが、その間、本当にどうなるのか？オリンピック開催のことも気になりますが、それまでの我が国の状況が見えません！そして、今、切実に思うことは、人々が、今回の「第2回緊急事態宣言」をあまり期待していない、否、むしろ等閑視 (無視?) している？そういうことかと思えます?!そこが、皮肉にも、第1回目と、根本的に違う?!

(つづく)

②②「未必の故意」というものがある！今回、これに該当することがある？！

I：繰り返しになりますが、またしても、「緊急事態宣言」が出されたのですが、どうも今回は、その「緊急事態」が、それと受け止められていない？というようにも思われますが、どう思いますか？

D：まあ、それについては、もう少し事態の推移を見なければ、何とも言えないとは思いますが、数字的には、遥かに緊急事態となっていることは確かだと思いたすがね！

I：緊張感が緩んでしまったとか、自粛疲れとか、いろいろ言われますが、深刻な状況になっていることは、明らかにはずです！

D：もちろん、そういうことなのだと思いますが、これについて、最近思うことがあります！それは、今回の状況（原因？）に、ある種の「未必の故意」というものが該当するようにも思うのですが、どうですかね？

I：え？それは、どういうことですか？私としては、初めて、その言葉を耳にしますが？

D：確か？法律用語だったかと思いますが、辞書的には、「行為者が、積極的に罪を犯そうとしたわけではないが、自分の行為から結果的に犯罪事実が発生するかもしれないという可能性を認識しながら、そうなってもしかたがないと思いつつ行為する心理状態。故意の場合と同じに扱われる」とあります！ただし、判例等、その詳しいことは、私にはよく分かりません！

I：あなたが、法律の専門家ではないので、その通りでしょうが、それはともかく、そういうことであれば、そこで言う「罪」とは、この場合は、「他人に感染させること」ということかと思いますが、ある意味、そのようにも言えるのかもしれないですね？！

D：もちろん、「他人に感染させること」自体は「罪（犯罪）」ではありませんので、何とも言えないのですが、「自分が感染しても、あまり問題はない？それよりは、リスクがあっても、今を楽しんだ方がよい？」、つまり、「未必の故意」というような状態で行動している人達が一定数いるわけです！

I：特に、元気な若い人達ですね？でも、彼らも、被害者であって、加害者

ではないですよ？誰にでも起こり得ることですから？

D：そうですね?!だから、判断が難しいのですが、ただ、ほとんどの人がそうならないように、可能な限り気をつけている（自粛している）わけですから、まったく責任がないとは言えない？

I：その限りにおいて、いわゆる「自己責任」が出て来るといえることですよ？

D：そういうようにも思うのですが、表面的（公的？）には、決してそういう言質は出てきません！本当に、そうなのでしょうか？二度目の今回は、特に、そう思うのです！

I：分からなくもないのですが、これまでは、自分がそうならなくても、これからそうなるのかもしれないのですよ？不可抗力ということも含めて、そういう意味では、誰にも責任はない?!

D：確かね！しかし、それは、何らかの形で、やってはいけないことをやってしまったということでしょうから、それはそれで、当事者は甘受しなければいけない?!

I：いやいや、やはりそれは、そうとも言えないのではないのでしょうか？どのように感染したのかが分からないまま、そうなってしまうこともあるということですから？

D：いわゆる「市中感染」と言われているものかと思いますが、例の「エアロゾル化」の状態、いつ、どのように感染したのかが分からないということですよ？その場合は、確かに、何とも言えないですね?!ただし、それにしても、まったくその可能性がない所では考えられない?!本人が、自覚していない（覚えていない？）所であったとしても、そこに何らかのリスクがあるならば、やはり、そこに行った（滞在した）という意味での「自己責任」はあるのでは?!

（つづく）

⑳ 近年の「メッセージ性」の弱さ（曖昧さ？）?!「頑張れ！」なんかは、まさにその典型?!

I：最近、本当に、コロナ禍に関わることばかりを問答していますが、本音を言うと、精神の疲弊というか、言葉の無力というか、何故か、一方では、そういう思いも高じているのですが、いかがですか？

D：現実には、何も変わらない？社会全体の良い兆しが、ほとんど感じられない？しかし、一方では確実に、貴重な日々が、次々と過ぎ去っていく（特に「高齢者」にとっては？）！私は、この間、何をしているのか？これでいいのか？そういうことを思いながら生きている？そういうことですね?!

I：生活感覚的に言えば、まさにそういうことなのですが、自らの生活の中に「無為感」「無力感」が、日毎に増していくということです！そうこうしているうちに、この間の「緊急事態宣言」も延長され、再び我慢の日々を強いられるわけですが、どこまで頑張れというのでしょうかねえ？

D：もちろん、そういうことは、他の多くの人も思っていることでは、とりわけ、これは、現役を退いた、ある意味「ステイホーム」を常態としている私達であるが故の実感とも言えるのではないのでしょうか？二重の意味で、本当に困った（切ない？）ものですよね！

I：え？二重の？それは、どういう意味ですか？

D：一つは、実際の日常生活における我慢（ただし、実際には、あまり我慢はしていない？それが、ある意味日常でもある？）！もう一つは、多分、あと何回あるか（どれくらい続くか）分からない？自らの社会参画、外とのつながりへの我慢？そういうことです！

I：一つ目は、よく分りますが、二つ目の「自らの社会参画、外とのつながりへの我慢？」とは、具体的にはどういうことですか？それが分からないと、他人（特に現役世代）には、よく分かりませんよ？しかも、それを「我慢」というのかどうか？

D：要するに、我々高齢者？には、その機会が、いつまでも与えられていないということです！しかも、やろうと思っても、病気等も含めて、諸般の事情で、やれなくなるということです！

I：まあ、そのことは、もちろん個人差もあるでしょうが、基本的には事実ですよ！それが、「老い」というものでしょうね！ちなみに、「老害」にはなりたくないですよ！（笑い）

D：ええ、その通りなのですが、実は、その判断（評価）は、なかなか難しいとは思いますが？特に、本人が、そう思っていない場合には？（笑い）

I：ということで、この「老い」談議自体は、この辺で終わるとして、改めて、「頑張れ！」というようなメッセージの弱さ（曖昧さ？）についてですが、それについては、いかがですか？

D：ただし、これについては、本当は、簡単な話ですよ?!要は、蔓延防止に頑張っていない人には、「(もっと)頑張れ!」、頑張っている人には、「(もう、それ以上は)頑張らなくてもいいよ!」、ということなのですが、何故か、「頑張れ!」というメッセージが、各自に無力感を与えるものともなり、何が何でも「ガンバリズム」の提唱が、社会全体への、負のメッセージともなっている?!

I：そうした状況が、結局は、1年以上続いているわけですからね！そういう意味での「メッセージ性」の弱さ、露骨に言えば、「曖昧さ」となっているということですよ！

D：確かにね！ちなみに、こうした「メッセージ性」の弱さ（「曖昧さ」？）は、何も、このコロナ禍に限られたものではない？この現代社会そのものが、そうなのではないか？そして、一方では、それらを無力化する？多種多様なメッセージが、SNS上等にある?!しかも、それが、物凄い力を発揮している（特に、若者達の間で!）！ということは、正しいメッセージが、そこに、どのように届いているのか？そういうことになりますよね（だが、そこが、最ももどかしい?）?!

（つづく）

②④ 初老の（孤独な？）ギタリスト？それを眺める、同じく初老の（孤独な？）ロマンチスト?!

I：今回は、やっとコロナ禍から解放された話題となりますが、過日、今年には異常な、プロ野球のキャンプ地訪問（横浜ベイスターズ）？を兼ねて、宜野湾市の運動公園に出かけたのですが、予想通り？、選手達の光景はともかく（ブルペン練習場が遠巻きに見えたが、彼らが誰であるのかは分からず？ただし、確か今永投手だと思うが、サブグラウンドにはいた？）、お客さんの姿がまったくありませんでした！

D：それは残念でした！無観客実施ですから、当然でしょうね！

I：もちろん、それはそれでいいのですが、やはり戸外に出かけてみると、様々な光景、人生模様が見られますね！さながら、私のキャンプ地訪問？は、そういうことを期待してのものでもありましたからね？しかも、とにかく、待ちに待った春の訪れですからね！

D：ということは、今回も、それに相当するものと遭遇したということですね？

I：そうなのです！道すがらの桜の咲き具合もそうだったのですが、その運動公園の海岸部（トロピカルビーチ）での一コマは、また別な趣をもつものでした！バーベキュー用の白いベンチに一人座り、ギターの弾き語りをしていた初老？（私よりは、少し年上か？）がいたのですが、その光景が、何とも哀切を感じさせるものでした！プロのギタリストとしてのオーラ（姿勢、弾き方等）はなかったように思いますが、妙に味のある弾き方、歌い方でした?!

D：まあ、夏の賑わいでしたら、そのような「隠れ（寂しい？）ミュージシャン？」は、そのような場には来ないでしょうね？ひょっとしたら、彼は、以前、何らかのプロだったのかもしれませんがよ（場末の飲み屋街で活躍した？）?!もちろん、私の勝手な想像ですが！

I：確かにね！しかし、それはともかく、うららかな春の日に導かれ、蒼碧の海を見ながら、独り弾き語りを楽しむ初老の男（ビートルズのレットイットビーも歌っていました!）?!すべて譜面なしの演奏でした！その中で、私が一番いいと思った歌（曲）は、彼の自作かどうかは分かりませんが、沖縄の

歌（確か首里城近辺を詠った歌？）でした！初めて聞いた歌でした！ただし、民謡風ではなく、どちらかと言えば、フォークソング風？でした！私には、その歌（曲）が、とても心地よいものでした！

D：コロナ禍による傷心の日々？過去の栄光を思い出す？何かを引き摺りながら、今を生きている?!少しだけ？年老いた男達（女性でもいいが、やはりこの光景は、男の方が似合う？ちょっと差別的かな?）?!そういうことですかね?!

I：まさに、そんな感じでしたね！通常の（今までの?）私でしたら、何か言葉をかけたのかもしれませんが、今回は、少し離れた別のベンチに一人座り、決して聞いてはいないというような風情で聞いていました！私も、ある意味、そうした、少しだけ？年老いた男ですからね?!

D：客観的に見ると、かなり滑稽な？初老の男達のツーショットだったのかもしれませんがね?!（孤独な?）初老の彷徨とは、まさに、こんなものなのでしょうね?!

I：いやいや、こうした形の落ちを期待したのではなく、そこで、ふと思ったのは、そうした初老の男達の（もちろん、それに限定する必要はないのですが!）、一つの社会参加の形（場）として、こういうものがあれば、結構いいのではないかなあと思ったということでもあります！

D：要は、決してコンサート風ではなく、その場にふらりと来て（演奏する人も、聞く人も共に!）、好きなように興じる（歌う、踊る?）?!そうした、さりげない自己実現?の場が、どこかにあればいいなあということですね！逆に言えば、積極的な出会いの場ではない（「コミュニティ広場」とか、「ふれあい通り」とかというような名前や位置づけではない!）、本当に気軽に行ける場所が、公園の一角にでもあればいいなあということですね?!

（つづく）

②⑤ それぞれの「日常」にある？「ビッフォーbefore」「ウィズ with」「アフターafter」？！

I：あの東日本大震災から10年、これに関わるニュース、ドラマ、ドキュメンタリー番組が続きましたが、本当に大変なことが起きていたものですね！様々なもの、事が、改めて知らされるわけですが、何とも複雑で、それについて、ここで問答するのも、ほとんど憚られますよね？！

D：確かにね！新型コロナウイルス関係のものも、相変わらず毎日のように流れていますが、いわゆる「日常」が、今の、まさにこのようなことであれば、それこそ問答する気にもなれませんよね？ある意味「溜息？」ばかりで（単発的には、嬉しいことや感動もあります！）、こちらの方からは、何も言葉を発する気にならない？否、発してはいけない？そうも、思ったりもしますよね？！

I：そういう意味で、直接の被害・災難に遭われた方達、今も大変な毎日を送っている方達、この間のコロナ関係もそうなのですが、そういう方達と、幸いにも？そういう被害・災難に遭っていない私（達）の「日常」とは、一体何なのでしょうね？物理的には、同じ日々、同じ時の流れの中で生きているわけですが、そこにある意味とか、価値（重み？）とかが、あまりにも違い過ぎる？！

D：そんなことを言われると、流石に、言葉に窮してしましますが、もちろんそこには、それぞれの「日常」が、同じようにあることはあるのだと思います！ただ、違いがあるとすれば、そこに、「ビッフォーbefore」「ウィズ with」「アフターafter」という、一連の、生活の前後関係の感覚があるのかどうか？！つまり、そこに、その人の人生を大きく左右している「事」が、明確に（重く？）意識されているのかどうか？！そういうことであろうと思います？！

I：それが、10年前の「東日本大震災」とか、今般の「コロナ禍」での被害・災難等の「事」ということですね？！その「事」が、一つの起点となって、その人の、その後の「ビッフォー・ウィズ・アフター」を成している？！そして、そこに、その人の「特別な日常？」が流れている？！

D：不謹慎な言い方になりますが、まさにそういうことかと思えます！ただし、それは、個人レベル（私的生活）での話であって、社会全体のレベル（公

共)での話ではありません?!ここで私が言っていることは、あくまでも、その個人レベル(私的生活)での話ですから、当然、そこはそこで、押さえておかなければいけません!だから、他人には、何とも言えない?!そういうことでもあります?!

I : それは、具体的には、どういうことですか?ある人が、ある何かのために、今を生きている?ある事のせいで、ある人の今の日常がある?復興とか、回復とか、そういうことにつながっていく部分かとは思われますが、そこに、その人の新たな生きる意味や目標が生まれている(だから強い?)?!

D : 要は、そこに、(無理矢理ですが?)明確な「ビッフォー・ウィズ・アフター」の物語がある?!言い換えれば、過去・現在・未来という時の流れが、その人の、一つの大きな、そして力強い生活軸となっている?!響きを買うかもしれませんが、そうでない人には、それが無い?単なる、平板な時の流れとなっている?そこが、切なくもあり、羨ましくもある?!そういうことです!

I : とは言っても、大なり小なり、そういうことは、みんなもっている?!「ウィズ・コロナ」、「アフター・コロナ」とか言わないまでも、それらは、多種多様にある(それが人生?)?!しかし、如何せん、その「ビッフォー・ウィズ・アフター」の意味(重み?)が違う?!そういうことですね?!

D : 言いたいことは、人生を強く生きている人には、確かな起点がある!たとえそれが悲しい「事」であっても(否、だからこそ?)、そこに、その人の現在、そして未来が意識される(ただ過ぎ去っているのではない!)?!失くしたものを茫然と見ていくわけにはいかない?!苦勞してでも、もう一度手に入れなければいけない?!そんな「起点」となる「事」を、切なくも有している?!余計なことであるが、そうでなければ、それらは、単なる「老いの喪失」と同じになってしまう?!

(つづく)

②⑥ 政策における「最適解」?!「トップリーダー」の役割は、可能な限りそれに近づけること?!

I：何か、最近の政策、とりわけ長引くコロナ禍対策においては、イライラや怒りを通り過ぎて、諦観?さえ覚えるような状況・動き（珍事件?）も続いており、本当に、どうなっているのだ?どうにかならないのか?というような思いも募っているのですが、そこには、ある意味「政策トップリーダー（達）」の不全（不在?）があるようにも思うのですが、どうですか?

D：確かにね?!何をやっているのだ?そんなことより、こちらの方が、ずっと先決（得策?）なのではないか?とか、まさに言いたいことは、山ほどありますよね?!とは言え、そうした「政策トップリーダー」の人達が、決していないというわけではないですよ?それぞれ、未知の経験の中で、精一杯頑張っただけではないですか?!

I：もちろんそうでしょうが、ただ頑張っているだけでは、どうしようもない?!相当?の時間も経っているわけですから、そこに、これまでとは違った、それこそ何かの「ブレイクスルー（突破口）」が見出されていなくては、とても「トップリーダー」とは言えないのではないのでしょうか?!

D：手厳しい?!ただし、それは、見方を変えれば、それぞれの状況（問題）の中での「最適解」が、なかなか見いだされていない?そういうことなのかもしれないよ?!それだけ、一つひとつの問題が、複雑多岐であるということもあって?!もちろん、いわゆる力関係や人間関係も含めてですが?!

I：当然、それはあるのですが、しかし、一方で、現実場面においては、何が「最適解」なのかは、誰にも分かり（決められ?）ませんよね?!それこそ、例のスーパーコンピューター「富岳」を導入しても（どんなデータを、どのように入力するかということもありますが…）?!

D：でも、可能な限りそれに近い、言わば「準?最適解」は、見出すことは出来るのではないのでしょうか?先日、私は、別コーナー（「教育協働への道 77」）で、「(教育) 政策トップリーダー」のことについて触れたのですが、新型コロナウイルス対応にしる、オリンピック開催にしる、そこにおける「政策トップリーダー（達）」の振る舞いが、他の案件（事件・犯罪?を含む!）にも左右されて（もちろん、それ自体も、大問題ではありましたが!）、なかなか称賛に値するものにはならなかった（い）?!

I：確か、そこでは、「速やかな対策の構築」「周辺理解の獲得」を行い、「マネジメント能力を発揮して、教育政策を実行したことで学びの保障に資する成果が現れた」ということだったかと思いますが、そこでのテーマは、それぞれの「政策トップリーダー」達が、そうした局面（プロセスや成果）を、いかにして創り出した（す）のかということでしたよね?!

D：そうです！そこには、「共通コンピテンシー」としての「トップリーダーとしての情報収集・分析力、企画力、実行力、判断力」「目的や理念を共有し、組織や教職員を動かすリーダーシップ力」「ネットワーク活用力とスピード感」、そういうことが重要であるということであったわけですが、それがあれば、少なくとも「準？最適解」（場合によっては、その時の「最適解」？）は得られる?!

I：それが、実際のあり様であるということかと思いますが、要は、そういうことを続けていく、それが大事だということですよ?！果たして、今いる「政策トップリーダー（達）」はいかに？

D：まさに、その通りかと思いますが！その時その時の、言わば臨機応変の「最適解」は、なかなか見出すことは難しくても、その時必要だと思ったことを思い切ってやらなければ、その先は見えない（ない?）！そういうことかと思いますが！それが、ここで言う「準？最適解」ということですが、その「準？最適解」を地道に、そして果敢に見出していくこと！そこに、「トップリーダーとしての情報収集・分析力、企画力、実行力、判断力」「目的や理念を共有し、組織や職員を動かすリーダーシップ力」「ネットワーク活用力とスピード感」が介在しているということですよ?!

（つづく）

⑳ 巡り巡って？結局は、「統一性と多様性」の問題（テーマ）に戻ってきてしまった？！

I：突然ですが、今、「バーバパパのがっこう」とかというような、「バーバパパ」を主人公とした絵本が、ネット上で話題になっていますよ！最初、彼？は、「おばあちゃんパパ？」かとも思ったのですが、フランスとアメリカの絵本作家夫妻の絵本に登場するキャラクターの名前だそうです！

D：それが、どうしたのですか？

I：実は、私は、大学院時代（H大学）に、研究テーマを、「西ドイツ（当時）における『文化連邦主義』に関する一考察」としていたのですが、そこでの問題意識は、「教育制度における『統一性』と『多様性』の相剋」を、いかに解決していけばよいのかということでした（前にも書いたかな？確かそうである？）！詳しいことは、ここでは紹介できませんが、その絵本が、今流行りの？「選択の多様性」をモチーフとするもので、教育界を含めて、多くの人の共感を得ているようなのです！

D：ドイツは（も？）、確か「連邦国家」であり、教育制度は、それぞれの「邦／州（Land→state）」の主権に属するもので、教育や文化、すなわち人間の精神生活に関わる部分は、それぞれの邦（州）が、各々の自由と責任の名において実行していく！それによって、「多様性」を保持？していく？！

I：まさしくその通りだったのですが（その後の推移は、詳しくは分かりませんが、今も基本的には、そうした基本原則は変わっていない？）、そうした多様性は、一面では、非常に大切な要素かと思います！

D：あなたは、若い時から？、そうした難しいことを考えるのが、好きだったのですね？しかし、「教育」というのは、そういう難しいところもあると思いますが、親とか、学校とか、教師とかが、将来を担う子ども達のために（その意味で「宝」？）、身を粉にして面倒をみる？！したがって、教授法とか、それを導く教育原理とか、そうしたことを学ぶ（研究する）のが「教育学」だった？！

I：確かにそうかもしれませんが、私が入った（正確には入れてもらった？）研究室が、「比較教育学」という、諸外国の教育事情や教育制度を研究するところでした！だから、どこかの国を選ばなければいけなかった！しかし、

最初は、この国！という国はなく、学部時代の語学履修の関係で、英語圏か、ドイツ語圏しかなかったのです（当然、当該国の言葉が分からなければ話にならない！）！それで、アンチ英語的な理由で（他の、多くの人達が英語圏の国を選択していた？）、しかも、マイナー？な西ドイツ（当時のH大学では、教育学とえば、「東ドイツ」が主流だった？）にしたのです！

D：やはりあなたは、この世界に入る時から変わり者だったのですね（ある意味可哀想？）?!とは言え、それだけでは、その研究テーマの選択理由にはなりませんよね?!

I：もちろんそうですが、私は、一方で、学部時代に、多少？社会科学にも関心もち（専攻分野は、まったく違ったところでしたが、当時のある理由？から!）、社会制度のあり方みたいなものを考えてもいたので、（西）ドイツの「文化連邦主義」を採り上げたということになります?!

D：要は、そこには、「(教育)制度の統一性と多様性の問題」があり（人間社会は、永遠に？この問題に悩まされる?!）、我が国の教育制度を考える上で、一つの参考になる？そういうことですね？どちらかが強すぎたら、社会全体がおかしくなる（硬直 or 拡散）?!そこに、バランスが必要となる?!

I：思考の流れとしては、確かにそういうことなのですが、しかし、その研究（テーマ）も、現実の就職とか、置かれている状況（立場）とかの関係で、まったく実を上げることはできませんでした！

D：それは残念ですが、しかし、そういうことは、ごく一部の人を除いて、他の多くの人、普通の人生模様かと思えます！とは言え、今般、あなたの、あの時の研究テーマが、巡り巡って戻ってきた?!そういうことにもなりませんか？もし、そうであれば、あなたの、あの若い時の問題意識（直感？）は、大いなる意味を潜ませていた？そうとも言えますよ?!

（つづく）

⑳ 「どうしようもないこと？」に、どう向き合っていけばよいのか?!最後の60代を迎えて!

I : 実は、今日で、私(達?)は、いよいよ最後の60代を迎えるわけですが、相変わらずの「コロナ禍」(第4波!)等もあって、なかなか素直に?我が誕生日を喜ぶことができません?Dさん、あなたはどうか?

D : もちろん私も、あなたと同じ年齢、同じ誕生日なのですから、思いは一緒なのですが、一方で、このように馬齢?を重ねていくと、誕生日とかいっても、何か面映ゆいというか、面倒くさいというか、そんな思いにもなりますよね?しかも、今回は、いわゆる「古希」の一步手前!ある意味、複雑でもありますよね?!

I : そこに、長く、憂鬱なコロナ禍!動けない!何も変わらない?!いたずらに、時間が、そして、日々が過ぎていく?何とも、歯痒い、もったいない?!そんなことさえ、思いますよね?しかも、もう一つ今回は、そこに、「どうしようもないこと?」という思いが加わって(否、そればかり?)、「うんざり」の極致?といったところでもありますよね?!

D : まったく同感ですね!その「どうしようもないこと?」とは、個人的(私生活的)にもそうですが、大きく言えば、国の内政・外交、すべてが、その中で動いている(実際は、動かされている?)?そんな気さえしますからね?!

I : ワクチン対応、オリンピック開催、それらを筆頭にですよね?!

D : そういうことですね!まあ、とにかく、その「どうしようもないこと?」の中で、私達は生きている?そして、これからも生きていく?そのことは、間違いないでしょうから、人は、ある時期(きっかけ?)に、そうした自分の人生への、ある意味での「決着?」をつけなければいけないのかもしれないですね?!それが、例えば、次の年の「古希」であったりする?!

I : そうですね!ちなみに、それは、「古来稀」という意味は、今では、ほとんど失われていますが、今流行りの「終活(を始める時)」の意味に置き換わっているようにも思いますね?「見切り」(諦め?)と「決断」というようにも言えるかもしれませんが、そんな気もしますよね?!「人生100年時代」とか、そういうことも言われていますが、私には、どうも、そういうようには思えません?!

D：もちろん、誰が、いつまで生きるのかは、まったく分かりませんが、一つのきっかけとしては、やはり 70 歳にある?!そういうことで、いいのではないのでしょうか？

I：ただし、今、話題にしているのは、生物的な終わりではなく、社会的な生活の終わり（見切り）ということですよ！ある意味、生物的な終わりを語っても、何の意味もありませんからね?!

D：それはどうだか分かりませんが（「生物的な終わりを語ることに意味がないことはない?）、基本的には、そういうことです！しかし、そうは言っても、誰もが、その 70 歳にこだわる必要はない！それこそ、人それぞれですから！単なる通過点という人もいます？それはそれで、いいのでは?!

I：結果的に（意に反して?）、それ以前に、そうなる人もいますしね！とにかく、「人は、ある時期（きっかけ?）に、自分の人生への、ある意味での『決着?』をつけないといけない!」。それが、今、私（達）が強く意識し始めていることだということですよ！

D：まったく、そういうことですね！そして、そこにある（底流している?）ものは、病気にしろ、加齢にしろ、「自分ではどうしようもないこと?が、厳然とある!」ことへの、「自分なりの納得（決着?）」が求められるということではないのでしょうか?!ただ、「社会的な生活の中でのどうしようもないこと?」への、「自分なりの納得（決着?）」についてが、それと連動しているかどうかは、それこそ人それぞれでしょうが?!

（つづく）

②9 改めて、「社会のどうしようもないこと？」に思う?!いつの世も、そういうことばかり?!

I : 先号では、基本、個人的な面で、自分（達）の「どうしようもないこと？」について考えたわけですが、やはり、本音?の部分では、社会の、つまり世の中の「どうしようもないこと？」についても、一応は語っておきたかったのですが、いかがですか？

D : まあ、気持ちは、よく分りますが、それをし始めたら、結局は、收拾がつかなくなり、自分の無力さや怠慢?（実際は、何も行動していない?）が、否が応でも露見してしまう?!だから、あまり問答したくない（やっても、意味がない?）?!そういうことだったのではないですか？

I : 確かに、そうかもしれませんね！しかも、やりようによっては、義憤や、何か（誰か）への一方的な批判に向かってしまう?!挙句の果てには、人によってですが、「厭世」とか、「虚無」とか、あるいは「空想」とか、「遁世」とか、そういうところにまで行ってしまう?!そうになると、元も子もなくなりますよね？ただし、そうならない人も、一方ではいますけどね?!

D : したたかに、そして、ある意味賢しく?ですね?!ただ、そうは言っても、多くの方は、そういうことにもめげず、あるいは少々目をつぶって、健気に生きている！たまには、弱気になったり、それが元で、病気になったりする人もいる（自死に向かう人もいる?）?!逆に、政策担当者や権力に対して、強硬に反発をして、最近では、我が国では、流石に「革命運動」的なことを行う「過激な人」はいなくなったようですが、ある意味での「理想（正義?）」を掲げて行動する人も出て来る？

I : まあ、そういうことを語り出すと、とてつもなく広がり、こんなちっぽけスペースでは、とても収まり切れない！しかも、真面目に、自らの置かれている状況の中で、不平不満を出来るだけ抑え、自分のため、家族のため、そして社会のために、黙々と仕事や活動を行っている人達に対して、半ば申し訳ないという気持ちも募ってきますよね?!

D : まったく、その通りです！そこで、ここで、私（達）にも言えることがあるとすれば、どういうことが言えるのか？それは、今生きている人間の誰しもが、「どうしようもないこと？」を抱えて生きている！そのことを、互いに了解し合い、事の解決に、互いの知恵を出し合う！そのことが大切

なのではないか？ということ?!もちろん、そのことによって、すべてがうまくいくわけではありませんが、自らの立場や主張あるいは損得だけで、一方的にごり押しをしたら、何も前進しない?!

I：だけど、一応、そういうことは、今の社会においては、大原則となっており、それに基づいて、個人も、社会も動いているのではないですか？しかも、一方で、現実には、そうした大原則を、自分あるいは自国の利益で、簡単に踏みにじってもいる?!そんな綺麗事で、事は解決しませんよ?!

D：確かに、一見すると、そういうことになりましたが、言いたいことは、当事者達が、その大原則に、どのように背馳（違反？）しているのかを説明し、そこから生じている結果（現状）に対する責任を、どのように取るのか？そこを追求していくことが大事なのではないか?!少なくとも、今般のコロナ禍に対する施策には、そうしたスタンスと具体策が必要なのではないかとことです！

I：しかし、そうしたことについても、一応、現在、既にやられているということになりませんか？

D：そうかもしれませんが、その具体的場面が、ほとんど見えてこない？マスコミ報道にも問題があるのですが、そうしたスタンスからの議論がない（相変わらず、みんなが被害者？）?!これは、「外交問題」にも言えると思いますが、多くの人が、そのことの当事者だと思っていない？別言すれば、それは、「社会のどうしようもないこと？」の一つになっている?!だから、考えたくない、一方で、自分勝手をする（直接、責任はないから？）?!しかも、ほとんどの場合、それで何ともない（コロナの場合、感染する人自体は、社会のごく一部と言え、そうなのである？）?!

（つづく）

③⑩ 「報い」について考える?! 「因果応報」は、「生きとし生けるもの」の宿命ではあるが?!

I : この年になって (も?)、仏教の奥義等など、まったく分からない私 (達?) ですが、最近、「報い」とか「因果応報」とか、何かそういったことを考えるのですが、いかがですか?

D : つまり、今 (これから?) の自分 (達) の状況 (生活とか仕事とか) は、それまでの自分 (達) の頑張り、言動、生き方、それらが渾然一体の原因となって、そうになっている?! だから、それは、自分 (達) のせい? それ故に、それを受け入れなければいけない?! 単純に言えば、そういうことですよね?!

I : そうですね! 後悔であろうが、満足 (納得) であろうが、それは、すべてこれまでの自分 (達) の責任であるということですね! もちろん、それは、決して悪いことばかりではないですけどね?

D : もちろん、そうでしょうが、普通は、悪いことの方が、その前提にあることは事実でしょう?! しかし、それはそうと、I さんは、何故、今、そういうことを考えているのですか? 私とすれば、そここのところが知りたいですね?

I : まあ、自分の年齢 (キャリア→60代最後!) との関係でしょうが (自分の人生を振り返る?)、もう一つは、今般のコロナ禍に関わる、人々の行動、生き様を見ての話だということにもなりますかね?!

D : 前者の場合とはもかく、後者の場合は、こうなれば感染する (or そのリスクが高まる)、あんなれば医療崩壊する、そうなれば社会は混乱する (破綻する?)、そういうことが分かっている (分かった?) にも拘わらず、求められているような認識・行動をすることが出来ない人達がいる (ひょっとしたら自分も含めて?) ! あるいは、そうしたことが起きると分かっている (分かった?) にも拘わらず、適切な対処やしきみづくりが出来ない関係者達がいる! そういうことですね?!

I : 基本的には、そういうことですが、やはりそこには、それに対する「報い」とか「因果応報」とかが絡んでくる?! 例えば、オリンピックを開催することが出来ないとか、多くの人達の生活の困窮がさらに増すとか、そういうことですが、本当に何とかならないものですかね?!

D：みんな、それぞれ精一杯の努力はしている?!それは間違いないことでしょうが、その精一杯の努力の中身が違う（バラバラである?）?そういうことなのでしょうね?!

I：自分だけは大丈夫だとか、自分だけがこうしても、大勢に影響はないとか、はたまた、そのこと自体は、自分には無縁のことであるとか?要は、その認識や行動には、かなりの幅があり、したがってまた、そこでの協力や対処の仕方がチグハグともなっている?!

D：ただし、それは、言わば「生きとし生けるもの」の宿命?かもしれませぬね?つまり、その時までは、自分のことが最優先!したがって、事の重大さは、なかなか実感できない?!精一杯、生きてはいる?!しかも、「不可抗力」とかいうような便利な「言葉」もある?!だが、それは、誰かが言っていたことですが、往々にして、「気がついた時は遅かった!」ということにもなります?!これは、個人レベルでもそうですが、まさしく病気（パンデミック）とか、事件、災害とかもそうです!

I：誰も、その時までは、分からなかった?気がつかなかった?そこまでのいくとは思わなかった?そういうことですよ?!したがって、それに対する責任は、誰にもない?表面的には、誰かの、あるいは何かの責任は問えたとしても?例えば、今回の場合は、すべて「コロナ」のせいだと?!

D：だから、そういうことは、人間の内面を救済する仏教の奥義ともなり、この世（人間社会）の宿命（宿業）として、後から（or 慈悲深く）見つめることしか出来ない?何とも哀しい実相ですが、そういうことになるのかもしれない?!変な話ですが、今からでも最悪のシナリオを防ぐことが出来るのであれば、誰か、自分の人生を賭けて?、多くの人達、もちろん若者達にも、そうした、コロナ禍の本質?を、大声で語る人間が出て来て欲しいものですね（政治家?首相 or 都知事?）?!

（つづく）

③① これも、一種の「オオカミ少年効果」と言えるかも?!「緊急事態宣言」の陥穽?!

I : またまた新型コロナの猛威がぶり返し (第四波?)、否、その変異株によって、その猛威はさらに増し、大阪等では、まさに正真正銘の大混乱 (医療崩壊?) に陥っていますね (インドやネパール等では、それ以上とか?)?!とにかく、こんなはずではなかったわけですが、何とかありませんかね?!

D : もう、そんな言葉も、言いたくも、聞きたくもないほど、うんざり千万なものなのですが、本当に、何とかしなければいけないですよ!このまま全国的な医療崩壊ともなれば、本当に、我が国はどうなっていくのか?そこまではないと、今でも、多くの人は思っている (た?) わけですが、それさえも覚悟しなければいけないのかもしれないかもしれませんよね?そこで、ここで思うことは、例の「非常事態宣言」の受け止め方というか、その推移についてです!

I : 今回で、確か「3回目」ということですが、その「宣言」の効果というか、その重みがないというか、そんな感じがしますよね?!しかも、残念なことに、同じ自治体・地域で、災禍 (過ち?) が繰り返されている?そんな感じさえしますからね?

D : そうですよええ!もちろん、そこには、いわゆる「嘘」はないのですが、結果として、多くの人々が、「またか!しかし、結局は、前回と、あまり変わり映えがしない?!今回も、まあ、何とかなるのではないか?」何か、そのように受け止めているようにも思えますよね?!多少?文脈は違うのですが、これについては、例の「オオカミ少年」の話も、どこかで思い出されますよね?!

I : 確か、それは、「イソップ物語」の一つですよ?「人は嘘をつき続けると、たまに本当のことを言っても信じてもらえなくなる。常日頃から正直に生活することで、必要な時に他人から信頼と助けを得ることが出来る」という教訓を示した寓話」ですよ (タイトルや話の経緯等、かなりのバリエーションがあるようですが?)?!

D : そうです!一般には、そう受け取られています。ネット情報では、「日本ではこの話を由来として、嘘を繰り返す人物を『オオカミ少年』と呼ぶことがある。また誤報を繰り返すことによって、信頼度の低下を引き起こし、

人に信じてもらえなくなることを『オオカミ少年効果』という。例えば、土砂災害が予測される地域で避難勧告を出しても、実際に災害が起こらない『空振り』が発生する可能性がある。空振りを続ければ情報の信頼度が低下し、情報を受け取っても住民が避難しなくなる。」そういうことですね！

I：要するに、「緊急事態宣言」が、その「オオカミ少年効果」を招いている？そういうことですね？

D：まあ、この「コロナ禍」については、誰も「嘘」をついているわけではないので、今回のケースを「オオカミ少年効果」と呼ぶのはどうかとは思いますが、何度も同じことを繰り返すと、あまり効果が期待できないという点では、根っ子は同じなのかもしれないということです！

I：まあ、それはよく分りますが、別な問題？として、その「緊急事態」ということの中身が、結局「よく分らない？」ということもありますか？言葉の割には、その緊急性（危険度）、あるいはその中身が、あまり切実なものとなっていない？

D：医療機関や実際に罹患した人達（家族等も含めて！）には、その緊急性は実感されますが（しかも、本当は、経済のこととかを加味すれば、それこそ緊急な対策が必要なわけですが！）、それとは直接には関係ない（と思っている）人達には、その緊急性が伝わらない？それが、再度のパニックの元凶なのではないか？私個人的には、「人の命を脅かすと判断される場合」には、通常の間々人の自由や人権は、何らかの制限を受けることになる！それが、まさに「緊急事態」ということかと思うのですが、それが徹底されていない？だから、多くの人にとっては、「緊急事態」とはなっていない？!

(つづく)

③② 「グラデーション（現実？）」の中での、「統一性」と「多様性」の意味?!

I：改めて、最近は、いわゆる「多様性」の主張（復権？）が喧しいのですが、これについて、Dさん、あなたは、どう思いますか？

D：それについては、先日のテレビ番組で（どこの、どんな番組であったのかは、よく覚えていない？NHK？）、「性（別）の多様性」が論じられていましたが、驚くべきことに、そこでは、「性（別）のグラデーション」（漸次的変化→性染色体、特にY染色体の！）が示されていきました！「性（別）」に、そんなことがある（った）なんて?!

I：「男性（性）」と「女性（性）」のバリエーション、というか、その存在状況ということでしたよね！遺伝子レベルでは（も？）、その境界をどこにするのが、本当は難しいということでもありましたよね！

D：しかも、考えてみると、生物（生命）の多様性（「グラデーション」）とは、たとえ遺伝子上のそれであったとしても、それは、ある意味では、生物（生命）の生存（進化？）にとっては必須なのかもしれませんよね?!変な話ですが、今回の「新型コロナ（ウィルス）」の変異（株）は、その一つなのかもしれませんよね（単なる「突然変異」ではない?）?!

I：もちろん、それは、我々人類にとっては、誠に困ったもの（危険なもの）ではあるのですが、彼ら?にとっては、生存（進化?）のためには、必要不可欠な変化ということですよ?!

D：そういう意味では、人類とウィルスの、言わば「永遠の関係」は、これからも続いていくということですが、問題は、その多様性の中から生まれた個体（固有種）が、一方では、その固有性を持ち続けていく?つまり、それ自体として生存していくことも事実であるということですよ?!

I：常に「多様」であったなら、「固有種」は、それ自体としては生きていけない?そういうことになるわけですが、実は、そうではなく、実際には、それ自体としても「生存」していく!要するに、そこに、自らの種の「固有性」、ある意味「統一性」ということになるかと思いますが、それを、顕現させて、保持していく?そういうようにも言えますよね?!

D：ただし、そうは言っても、長い年月の間には、生存していくものと、途

中で消滅していくものがある?!もちろん、それには、多種多様な要因があるわけですが（その多くは、我々「ヒト」という固有種が、その原因をつくっている?）、そこでは、いわゆる「優勝劣敗」というようなことが起きている?!

I：「用不用説」とかもありましたが、ある意味「必要なものが生き残り、必要とされなくなるものが消えていく?」そういうことでしたよね?!

D：そうですね!私が言いたいことは、その「生き残り」のためには、「多様性」の中から、自らの工夫（必要）で、「ある枠組み的なもの」、言い換えれば「統一的なもの」を創り出していく必要がある?そのために、「しくみ」や「道具」を創り出す?それが、言わば「文明」である?!そういうことです!

I：ただ、そうは言っても、その「枠組み」（「統一性」）が強過ぎれば、その全体がおかしくなる（崩れていく?）ことにもなりませんか?だから、常に、そこには、「統一性」と「多様性」のバランス（「グラデーション」?）が必要となってくる?しかも、それは、単なる見かけ上の（擬制的な?）バランスでは、決してうまくいかない?そういうことも言えるのではないのでしょうか?!

D：結局は、そういうことでしょうか、ここではっきりしていることは、「枠組み」（「統一性」）の存在意義を、単なる「厄介もの」or「手枷足枷」とだけしか見ない場合は、人間社会（or生命体）は「混乱」を迎えるということですか?ただし、その「混乱」（消滅していなければ!）から、何かが生まれるということもありますから（「複雑系」?）、そこは何とも言えなくなりますが?!

（つづく）

③③ 「(新型コロナ) ウィルス」のメッセージ?!そこには、「二重の警告の意味」がある?!

I : 改めて、新型コロナウイルスの猛威がここまで続くとは、専門家以外は、誰も思っていなかったと思いますが、否、他ならぬ、その専門家のみなさん達も、ここまでは想定していなかった??

D : ひょっとしたら、そうかもしれませんね?!しかし、まあ、ここで、そういうことを再確認しても始まりませんので、今回は、これについて、私が考えついた(妄想した?)、新型コロナウイルスによる「二重の警告の意味」のようなものについて、少し話をしたいと思います?!

I : 「二重の警告の意味」とは、ある意味物騒な話ですが、改めて、それは、どういうことですか?一つは、いわゆる「三密(密閉/密集/密接)」になれば、「感染(猛威)が起こるぞ!」ということだとは思いますが、もう一つは、何なのですか?かなり興味?がありますね?!

D : もちろん、それに付随した、それこそ多くの警告?があるとは思いますが、実は、彼ら(ウィルス)は、いわゆる「無症状」の人(自覚がない、あるいはそれを無視している)を介して、その「猛威を振るうぞ!」という警告を発しているということですか?!別言すれば、今回は、「あなた達の弱点を突いて、自分達の生存(増殖)の可能性を高めたぞ!」というメッセージがあるということですか?!

I : 「警告」とか「メッセージ」とか、よく考えつかれましたね?!しかし、考えてみれば、そのように受止められなくもないですよ?!だが、いずれにしても、それは、ある意味物凄い警告(メッセージ)ですよ?!「ワクチンとのたちごっこ?」ということも含めて、彼ら(ウィルス)が、長い年月の間に勝ち取った(学んだ?)、一つの知恵なのかもしれませんね?!

D : 私には、そのように見えるということですが、「人間社会の弱点を突いた?」、まさに、そこが重要な警告(メッセージ)なのではないかということですか?!

I : では、もし、そういうことであれば、それを実現させる、何らかのメカニズム(意志?)が、そこには働いている?つまり、それは、遺伝子上の「単純な(偶然の?)ミスコピー」ではなく、生き延びるための「積極的なミス

コピー」、否、意図的な「変身」がなされている？そういうことにもなる？

D：そういうことです！彼ら（ウィルス）は、通常の増殖では、永続的に生き延びることは出来ない？そのことを知っている？だから、常に「変身」して、生き延びていくという術を獲得した？それが、まさに「変異」ということではないかということですか？！

I：それが、彼ら（ウィルス）の、いわゆる「種の保存」の方法ということでもあるわけですね？しかも、それは、彼ら（ウィルス）のような、「他の生命体」の中で生きていく「生命（種）」の、言わば「生命線」でもあり、「宿命」でもある？！

D：まさに、そういうことかと思いますが、今回、改めて注目されるのは、感染力や症状の強さもありますが、「無症状」の人によって、そのメカニズム（意志？）が実現される？そうした戦略が採られているということですか？！それが、通常の変異とは違う？！要は、単なる偶然ではない？！

I：それが、彼ら（ウィルス）が、長い年月の間に勝ち取った（学んだ）、一つの「知恵」だと？！相手（宿主）の弱点を逆手に取るなど、何か、物凄い、彼ら（ウィルス）の逞しさを感じますね？！

D：その通りです！今回、改めて思うのは、彼らの方法（選択？）には、まことにしたたかな戦略が組み込まれているということですが、少しシニカルな言い方をしますと、一部症状が出ない人をつくり、彼らによって、自らの増殖（生存）を確かなものにする？そういう戦略です！そういう点で、人類は、ある意味「ウィルス」に見透かされている？人間社会には、必ず、一部そうした、多くの人と違った反応（行動）をする人達がいる？！そこを学んだ？！そこに、つけこんだ？！そういうことかもしれないということですか？！したがって、これも、ある種の警告なのかもしれませんよ？！

（つづく）

③④ このまま、一つの「区切り」まで、ずるずるといくのか？否、やはり何とかしなければ?!

I：相変わらずのコロナ禍の連続（特に、沖縄は!）！何か、最早、これが日常とも言えるほどでもありますね?!政策担当者や医療関係者等には、甚だ申し訳ないのですが、いつまで、この「日常?」が続くのでしょうかね？間近に迫ったオリンピック開催も含めて、苦しいながらも、何とか光明が見出せないものか？そんなことを思いながらの、最近の日々ですよ！

D：まったくです！しかも、それに絡まった数々の問題点・課題の提示（醜聞?もある!）！毎日毎日、「明日こそは!」と、その回復の兆しを待ち詫びながらも、変わらぬ惨状・窮状（そして、新型の変異株の脅威も!）は、ワクチン接種の進展にも拘わらず、本当に芳しいものではないですよ!?

I：そうですね！もちろん、それに立ち向かっている、数々の、そして名も無き関係者（特に、保健・医療関係者）もいるようですが…そんな中で、ふと思うことがあります！今の私に、何ができるのか？何ができているのだろうか？と！前にも、どこかで言ったような気もしますが、今回改めて、そんなことを強く思い始めている私でもあるのです！

D：しかし、そうは思っても、ほとんど動けない！誰とも、話せない！奥さん以外は（笑い?）？

I：そういうことです！とにかく、70歳までは（残り10か月!）、何とか、私なりの「社会貢献（参加）」をしたいものと思いながら、これまで頑張ってきているつもりなのですが、実際には、ほとんど役に立っていないのが実情なのです！何とも悔しい？限りなのです！

D：そうですね！そして、心中は察しています！ただし、「70歳までは!」というのは、もちろん、あなた（私も?）の勝手な思い（区切り）であり、一つの、あなた（私も?）なりのポーズ（内なる宣言?）であることは言うまでもありません?!しかも、他の人にとっては、それほど気になることではない?!

I：もちろん、そうなのでしょうが、しかし、それには、私なりの思いがあるのですよ！50代前半での、ある病の宣告、そして、その後は、また別な病との出会い（こちらの方は、当時は、ぶち明けそんなに厄介なものとは思わな

かった!)！そうしたものを抱えながらも、逆に、意を決しての大学・学部改革への挑戦？尤も、それらは、結果的には、まったくの不発に終わりましたが…

D：要は、まだ、やり残したことがある？自分なりの、最後のけじめをつけたい！そういうことかと思いますが、それが、 magariにも、今なら出来る？否、今が、最後のチャンスだと思っけていても、このコロナ禍によって、そのことが、大いに阻まれている！そういうことですよね?!

I：まあ、単純に言えば、そういうことなのですが、何とも歯痒い、何とも悔しい、そういうことなのです！

D：ただし、そうは言っても、奥さんをはじめ？、他の人にとっては、あまり深刻に受け止めることではないのではありませんか？みんな、そうして、年を取り、社会参画から離れていく！しかも、みんなそれぞれ、自分のこと、自分の生活で精一杯なのですからね?!

I：そういうことを言われれば、まさにその通りなのでしょうが（ちょっと寂しい？）…

D：でも、そんな中でも、何か役に立っていることもあるのでしょうか、それを大事にして、やっていく他ないですよね?!

I：月1回の「教育協働セミナー」の開催とか、玉城青少年の家の「相談員」としての関わりとかということですよ?!

D：そういうことですが、実は、次回（7/24）は、そのセミナーで、新たな挑戦があるみたいではないですか？それと、玉城青少年の家の「相談員」としての貢献も？まずは、そういうことになりますよ！それなりに、頑張っていきましょうよ！

(つづく)

③⑤ コロナ禍による鬱屈だけではない！「古代史の旅」の頓挫?!ただし、そこらは「天の報い」?!

I : またしても、件の新型コロナウイルスの感染拡大が始まっていますね（今回が一番速くて、大きい?）! そんな中で、私の、この間の鬱屈は、ただこのままでよいのか? このまま、何も出来ないで、70 歳の大台に乗るのか? といい、自分自身の焦りとか、悔しさみたいなものもあるのですが、D さんの方は、それ以外にも、大きな鬱屈がありますよね?! 例の「古代史の旅」が、あまりうまくいっていないとか?

D : 流石に、長年付き合ってきた I さんだけに、よく分ってくれていますね! 実は、まったくその通りなのです! あなたが、無理矢理 R 大学を退職した後、私の方は、その反動で、否、むしろそれをやるのが、私なりの意地の出し方でもあったわけですが、この間、多くの論稿（雑文）を書き、その集大成のようなものまで作りしましたが、その後が、なかなか進まないのです!

I : そうした経緯の大本は、私の方にあるようですので、それについては、かなり複雑な思いにもなりますが、いずれにしても、それは、やはり、素人の限界というものではないのですか? 否、はっきり言って、努力不足とも?! しかし、それも、本職ではなかったわけですから、当然と言えば当然なのでしょうが?!

D : そう言われれば、身も蓋もありませんが（少しムカつきもする?）、冷静に受止めれば、まったくそういうことなのかもしれません! それほど、古代史の世界は（も?）甘くはないということですかね?! しかも、今なお、片手間と言え、そうなのですからね（気力・体力、そして記憶力にかこつけて!）!

I : もちろん、そういうことでは、もう一つは、他人の禪で相撲を取っているから? そういうことになるかとも思いますよ?! 尤も、私も、専門分野であった「教育学」においては、まったくそういうことであつたわけですので、これ以上は何とも言えませんが…否、ひょっとしたら、他人の禪も借りていない（正確には、借りる力もなかった?）?! カッコよく言えば、「天上天下、唯我独尊」?!

D : 物は言い様ですが、それは、単なる孤独（孤立?）とも言えるでしょうね（笑）?! とは言え、それは、私（達?）なりの、精一杯の、一つの生き方で

もあった?!ただし、それは、ある意味「天の報い?」、そういうことでもある?!

I : ということであれば、多少、自虐的な言い方かもしれませんが、私も、あなたも、同じ「天の報い?」で、今を迎えている?でも、それが、事実なのですから、何とも言えない?そういうことにもなりますかね?!

D : 確かにね!でも、それが、私(達?)の生きてきた道ではあったのですから、最早今となつては、それを貫くしかない?そういうことにもなりますよね?!そして、私は、まったくそれでよいと思っていますよ!多少のエレジックさを湛えた?居直りというか、自分の人生への納得というか?!

I : そうですね!自分(達?)で言うのも何ですが、多少の後悔はありますが、そこにおける虚偽、不義・不正等は、まったくないのでからね(笑)!少なくとも私利私欲のためはなかった?!

D : そういうことを言われれば、まさにその通りなのでしょうが(ちょっと寂しい?)…でも、そんな中でも、何か役に立っていることもあるのでしょから、それを大事にして、やっていく他ない?!

I : 月1回の「教育協働セミナー」の開催とか、玉城青少年の家の「相談員」としての関わりとかということですよ?!

D : まあ、そういうことですが、実は、そのセミナーでは、新たな挑戦・展開も始まっているみたいですので、それを大切にする!まずは、そういうことになりますよ!それなりに、頑張っていきましょうよ!とは言え、本当にコロナには弱りましたね!

(つづく)

③⑥ 「インフルエンサー」??指導者（リーダー）でもない？「カリスマ」でもない？！

I：ところで、最近、よく「インフルエンサー（influencer）」という言葉聞くようになったのですが、恥ずかしながら、その意味が、この間、あまり分かっていませんでした！「インフルエンザ」ではないかと、一時期は、思ったりもしたのですが、そうではありませんでした（笑）！

D：語源的には同根でしょうが、ネットでは、「世間に与える影響力が大きい行動を行う人物のこと」、「その様な人物の発信する情報を企業が活用して宣伝することをインフルエンサー・マーケティング（SNSマーケティング）…従来の有名人やタレントといった知名度があって多数のフォロワー数を持つインフルエンサーと比べ、フォロワーが相対的に少なく万単位に満たない場合や、得意とする分野・ジャンルに特化した発信をしている場合は、『マイクロインフルエンサー』…」とあります！

I：いずれにしても、本当に、次から次へと、新しい言葉が出て来て、覚えるのに四苦八苦しますよね！実は、もうそろそろ、そうした流行は追わない（追えない？）と思っはいますが（記憶力の限界！笑）、折角ですから、何故、このような新語が使われ始めたのかは知っておきたいですね？

D：要は、メディア／ネット上で、強烈な自己主張や有用（情動的？）な情報を発信する人がいて、他の人達が、そうした人達の言動に大いに影響を受けている?!その意味では、新しい形の「人間関係」?!現実には、そうした働きをする、多くは「結果的に」でしょうが、そうした人達がいる？ニュアンスとしては、従来の「指導者（リーダー）」とか、「カリスマ」とかといった存在よりは、より親近感のある（だから多少軽い？）存在でもある?!しかも、自分の好みで選べる?!

I：多分、今回のような、オリンピックアスリート（オリンピック）とかも、そうですね?!

D：確かにね！その人の成績ももちろんですが、その人の「人となり」（ファッションも含めて？）とか、そこに至るまでの経緯（人生模様？）とかが、大きな影響を与える（大きな感動を伴って？）?!

I：その、まがりなりにも始まっているオリンピックですが、それに出場し

ている選手、とりわけ挫折や事故等から這い上がってきた選手には、まさしくそうした雰囲気は溢れていますよね?!

D：ただし、よく考えてみると、それは、メディアやインターネット上での人間関係、しかも、不特定多数との関係（ある意味一方的な関係？）であることが、一つの特徴なのではないでしょうか？まさに、直接顔を合わせる関係ではない？しかし、その影響力は凄い?!

I：確かにね！そう言えば、多少文脈は違うかもしれませんが、教育学の分野（もともとは「社会人類学」から？）では、そういう人間関係について、「意味ある他者（significant others）」というようなことを言ってきましたが、要するに、その人の身近にいて（親・兄弟等は除いて!）、生き方や役割取得において、何らかの影響を与えている人のことです！実は、この力、人間関係は、少なくとも？これまでの人間社会（コミュニティ）においては重要なものであった?!

D：つまり、一緒にいて良かったとか、安心するとか、あるいは将来そういう人になりたいとか、一緒に仕事や活動をしたいとか、そういうことを感じさせる人の存在のことですよ！

I：まあ、そういうことですが、その意味では、多少皮肉っぽくなりますが、今は、そういう人が身近にいない？だから、メディアやネット上で、そういう人達を探す、見つける?!そういう、ある種複雑な（淋しい？）人間関係を指しているのかもしれませんが?!しかも、そこには、確実に「虚々実々の世界」が蠢いている！そこが、何とも悩ましいですね？

D：とは言え、その力は、計り知れない！半分本気ですが、現下のコロナ禍において、今、何をすべきなのか！本気で伝えてくれる「インフルエンサー」が欲しいですね！特に、「若者」に対して！

（つづく）

③⑦「正しい選択」とは、沢山の「正しいこと？」のせめぎ合いから生まれてくるもの?!

I : 久しぶりの問答となりますが（原因は、いろいろとありますが?）、いつの間にか、世間では、何とも奇妙な?自民党総裁選の動向に耳目が集められていますね!相変わらずのコロナ禍の中での動きですが、いずれにしても、昨日、パラリンピックも終わり、この間、何が「正しい選択」であったのか?よく分からないことだらけですよ?!ただし、アスリート達が見せてくれた、スポーツの良さ、素晴らしさは、本当に感動ものでしたよね?!

D : まったくですね!スポーツと政治・経済が、実際には密接不離であることは事実なのですが、狭い見かもしれませんが、そのことを忘れ去らせてくれるアスリート達（とりわけ日本選手?）の躍動（競技自体での失敗/敗戦も含めて!）は、次元の違う光景を我々に見せてくれましたよね?!

I : しかし、もちろん、それはそうですが、それこそ賛否両論の渦（醜悪な解任劇等も伴って!）の中で、あれほどの難しい選択が迫られたオリンピック・パラリンピック（他の幾つかの、リスクの高いイベント・行事等も含めて!）も終了し、ここにきて、本当に「正しい選択」とは何なのか?改めて、そういうことを考えさせられますよね?!

D : 確かにね!そういう意味では、「正しい選択」とは、言わば、（その時々）沢山の「正しいこと？」のせめぎ合い（ぶつかり合い）の中から生まれてくるもの?そういうように理解されるかもしれませんか?!ある意味では、まさに「妥協の産物」とも言える?!

I : 「妥協の産物」と言われれば、かなりの違和感もありますが、結局は、人間社会の「正しい選択」とは、実は、そういうもの?否、かなり乱暴な言い方ですが、そういうものとして受け止めなければ、やっておれない?そういうことですよ?!

D : 気持ちは、よく分かります!ところで、「政治」とは「まつりごと」と言われますが、その「まつりごと」とは、本来は、「政事」と「祭事」からなる、そういうことですよ!つまり、「政治」には、両方の側面（要素）があると?!そして、今回、その両方の側面（要素）が、件の「コロナ」によってたまたまにされた?!

I : そして、そのことが、ある人達の政治生命をもずたずたにした？そういうことですかね?!

D : ある意味、「政治」（「まつりごと」）の絶好の機会が、一転、最悪の機会となった？そういうことかと思えます！まあ、それが、「まつりごと」を主宰する者？の宿命と言えるのかもしれませんが、かの「卑弥呼」も、その「まつりごと」の宿命によって、自らの死を迎えた？もちろん、その場合の「最悪の機会」とは、どこかの国（「狗奴国」？）との争いに負けた？ということですが…?!

I : 何とも怪しげな話となりましたが、要するに、「豊穰」や「安寧」を実現（約束）する！それが「政り事」！そして、そのために、祈る（饗宴する）！それが、「祭り事」だということですよ？!

D : ただし、そこに、自分ではどうしようもない「大事件」（人災・天災を問わず！）が起きると、その権威（神威？）の拠り所が、もろくも崩れる！民主党政権時代の東日本大震災、現自民党（安倍→菅）政権下での新型コロナウイルス感染の猛威、それらは、まさにそういうことであつた?!

I : 今回は、オリンピックが「祭事（祭）」、コロナ対策が「政事（政治）」であつたわけですが、そのかみ合わせがうまくいかなかつた？だから、その責任を取らされる（通常は、「禊」があるが？）？

D : そういうことですが、首相（女王／長／大王）の存在意義とは、まさにそういうもので、権力の掌握とその維持システムは、そうしたメカニズム（祭政一致？）の上に成り立っている?!しかも、それは、大なり小なり、現代社会のどの部分にもあり（地方自治体や会社、あるいは大学等も？）、その意味では、それは、人間社会の巧妙な知恵？とも言える?!そういうことも、思います?!

(つづく)

③⑧ 一度は言っておきたい？私（達？）の本音（告白？）?!まずは、「教育」と「学習」の関係について！

I：ある意味突然、そして当然ではありますが、元教育研究者の私（実際は、似非学者？）の、専門領域での、これまでの研究（言動？）のスタンスは、「学習」にではなく、「教育」の方にありました！端的に、「生涯学習」ではなく、「生涯教育」の方に重きを置いていたということですが、要は、「生涯教育」と「生涯学習」、そして「社会教育」を、混同ないし攪乱させて捉えてはいけないということでした！

D：もちろん、「教育」と「学習」の定義（概念）自体も違うのですから（ただし、表裏一体ではある！だから、会話上は、どちらの方からでも成り立つ?!）、それはそれでいいのではないかと思います、何故、今更そういうことを言い出す（告白する）のでしょうか？

I：それは、多少専門的？なことですが、かの「生涯教育／学習論議」において、やはりこれからは「教育」ではなく、「学習」の方に目を向けようということになり、いつのまにかそれが、「生涯学習」という用語・表現に統一（糾合？）されました！尤も、それは、所謂「社会教育」の世界の話となっていたので、そういうことになったのですが、実は、それが、今でも尾を引いているのです?!

D：つまり、そこでは、学習者（市民）の主体的な学びを前面に出したいということで、そうなったのでしょうか、全体的な議論（「生涯学習体系への移行」論議）がおかしくなり、そこで、敢えてIさんは、「生涯教育」という表記（概念）の重要性にこだわった？そういうことですよ?!

I：その通りです！と言うのも、その「生涯教育／学習論議」においては、当初、子ども達の、学校での教育・学習も含んでいたのですから（否、むしろそこから、「生涯教育（学習）」の理念は登場した!）、「教育」ということは外せなかったし、しかも、双方の言葉（概念）は、本来は決して対峙して捉えられるものではなく、それ故に、そこでの議論の本質は、その両者の関係を、いかに良好に築き上げていけばよいのかということであると受け止めていたからです！

D：しかし、結局は、「学習」の方が、学習者の主体性を尊重しているとか、「教育」は、今流行りの？「上から目線」での、一方的な強制というよう

な捉えられ方がなされ、「教育」は、「学習」に取って代わられるべきものということにまでなってきた?!確か、その双方の関係の究極的な試練は、当のユネスコにもあったようですが（今でもある?）、ある意味それは、不幸な取り合わせともなった?!

I：そうなのです！両者の関係は、本来は相即不離の関係であり、決してどちらかが、どちらかによって消し去られるものではないのです！話は、簡単なのです！要するに、繰り返しますが、両者の良好な関係を創り、その関係によって、教育の成果（学習の成果でもある！）が上げればよいのです！何故なら、そのために、「教育」はあるのですから！

D：でも、実際には、今でも、重要なパートナーである学校教育関係者は、社会教育のことが生涯教育（学習）であると知らされていますし、学校教育が、生涯教育（学習）の一環であるとか、その基礎の部分になるとかいう話になると、どこか怪訝な顔をされる?!つまり、直接は関係がないと？

I：そういうことですが、我が国では、社会教育関係者の方が、この「生涯教育（学習）」のことを、自らの天命のように受け止め、中心になって、その普及に努めてきたわけですので、その影響（今となっては「残滓」「悪影響」?）が、学校関係者の方に及んでいるということにもなるわけです?!

D：それは、そうですね！自分達は、学校教育関係者であって、社会教育、つまり生涯教育（学習）関係者ではないと?!ということで、そういう意味では、「生涯教育」を「生涯学習」に代えたことは、社会教育関係者にとっては意味があったわけですが、学校教育関係者の理解、意識づくり（変革）という点では、ある種の仇?となった?そういうことですね?!

（つづく）

③⑨ 一度は言っておきたい？私（達？）の本音（告白？）?!次なるは、私（達？）が憧れる「教育者」?!

I：次に、これまでは、公式には言明したことはないのですが、「教育」にこだわってきた、この私の憧れる「教育者」を挙げろと言われれば、ソクラテス、ルソー、そして、我が国では、何故か？吉田松陰を挙げたいですね！他に、グルントウィヤ、その影響を受けたという土田杏村も?!

D：ソクラテスは「無知の知（→産婆術／問答法）」、ルソーは「自然（本性）に帰れ（→消極教育）」、吉田松陰は、かの「松下村塾」、そしてまた、グルントウィヤは「(デンマークの)国民高等学校」、土田杏村は「信濃自由大学」、そういうことかと思いますが、一体、それはどうしてなのでしょうね?!ちなみに、ルソー自身は、我が子の教育には失敗しているようですが?!

I：そういうことですね！いずれにしても、彼らは、今で言う、学校での子ども達の教師ではない！敢えて言えば、大人、青年達（次代を創る？）への教師？であった?!そこに、惹かれるということですかね?!ただ、かく言う私は、恥ずかしながら、彼らのことを詳しく知っているわけではないし、そもそも原著（訳書も含めて）を直接読んでいるわけでもない！他の人の著書や論文等で知っているわけですが、何故か、彼らのことが、今の私の脳裏に浮かぶわけです！

D：とにかく、直接自分で調べるとか、原著（訳書）を読むとかいうことと、彼らが実践してきたこと、その言動が分かるということ（他人を介してではあるが!）とは違いますし、それはそれで、良いのではないのでしょうか?!特に、今となっては?!

I：そう言われれば、多少は救われますが、やはり、そうした態度（言動）は、いわゆる「研究者」としては、最も恥ずべきことなのかもしれません（否、まさに「失格」である!）！しかし、そこで言われている（分かった）ことの方が、私にとっては、より大切であった！軽蔑？されるかもしれませんが、それが、ここでの、私の本音（告白？）でもあるということです！

D：直接の研究テーマとはならなかったのですから、それはそれで仕方がないとも言えますよね?!

I：ところで、ここでは、かのペスタロッチについては、私にとっては、か

なり複雑ではあります！彼が、余りにも偉大過ぎる？ということですが、私は、かの「教育愛」というものが苦手なのです！今も、我が国を含めて、世界中に、彼のような誠意と専心で、困窮している子ども達あるいは大人達に対して、「教育」とか「学習」とやらはおくびにも出さず（それが、本当の「教育者」である？）、力強く支援をしている人達がいる！そういう人達には、頭が上がらないということです！

D：そんなことを言われれば、私も困りますが、人は、自分がやれる（やった？）ことしかやらない?!かなりの自己満足（欺瞞？）かもしれないですが、そういうことでいいのではないのでしょうか？ただし、はっきりしていることは、その向こうに、そのことを真摯に受け止めてくれる人がいるのかどうかだと思います?!何故なら、そういう人達がいなければ（いなくなれば）、そうした告白（戯言？）も、それこそ意味がなくなるからです?!

I：そういうことも含めての、今の自分！そういうことですよね！しかし、そろそろ、何か深刻な自己告白となっているようにも思いますので、今回は、この辺で止めておきましょう！ただ、私が、大学での職を全う出来ず、その延長で、今の、この大謝名というところに引っ越しをしてきて、当初は、かなりの失意の中で、時を過ごしていたのですよね?!

D：そこで、心ある人、優しい卒業生達のお陰で、まだ教育者（研究者ではない!）の真似事（実際は面倒を見てもらっている？付き合ってもらっている？）が出来ている?!それが嬉しくもあり、感謝でもある！ほとんど遊び心で（しかも、私のために?）、「岳陽舎」と名づけた、この場所ですが、トータルで見れば、その名に相応しい何かが、そこに在ると言えるのかも知れませんね?!

（つづく）

④ 最後の問答?! 「沖繩」をどう思うか? だが、これは、まだまだ「総括?」とはならない?!

I : さて、ここでの、私とあなたの遣り取りも、最近では、「問答」というよりは、「対話」というようなことになってしまっているようにも思うのですが、いかがですか? 要するに、「問(う者)」と「答(える者)」のスタンス(役割?) がはっきりとしないということですが?

D : まあ、そう言われれば、確かにそうかもしれませんね! 結局は、「問」にしても、「答」にしても、「I & D」という、言わば「内なる二人? の人間」が行う問答ということですので(笑?), そうならざるを得ないということですよ? ね?! だから、役割分担が怪しくなる(馴れ合いになる?) ?!

I : そうですね! そこで、今回は、このいわくつきの「問答」に区切りをつける意味で(記念として?), まさに二人が関わってきた(生きてきた)、この『沖繩』をどう思うか? というテーマで、少しホンネ? を出し合ってみたいと思っているのですが、いかがですか? と言うのも、実はそのテーマは、このシリーズ(I D問答)の最後で、何とか取り上げたいと、当初から思っていたからです?!

D : そうですか! もちろん私も、そのことは意識していましたので、それはそれで結構ですが、とにかく、「おきなわ(敢えてひらがな!)」については、様々なことが脳裏に浮かびますよね?! だけど、それについては、まだまだ迂闊には語れない? と言うか、下手に喋ると誤解を招く? そんな気もしますよね? もちろん内外に?! 何故なら、今(なお)まさに、私(達?) は、ここ「おきなわ」で生きている(生活している)のですからね!

I : そこには、何か語りづらい事情というか、心境があるということですよ? 私の方は、R大学在職中に、いわゆる「本土」から来た学生達を数多く見て来ましたが、彼らには、かなり肯定的な思いがある(南国/青い空、碧い海 etc. ただし、一部? 九州からの学生は、ちょっと違う要因もある? いわゆる「入試の難関度」? → 現在はどうなのかな?) ?! 要は、どこか憧れ? 的な思い、イメージがある?!

D : それは、仕事や観光で沖繩を訪れる大人達も同じだと思いますが、いわゆる「沖繩好き好き人間」が多々いるということですよ? ね(中には、そうでない人もいますよ? → 両極に分かれる?) ?! しかし、自分(達?) は、そ

うではない?!自分(達?)は、職のために、その「本土」から来て、今では30年以上も、ここ「沖縄」に住み続けているわけですから、かなり複雑な思いを持っている?!

I : いろんなことがありましたからね!だが、いずれにしても、いわゆる「うちなーんちゅ」ではない?!しかし、何とかここで役に立ちたい!否、そうしなければ、「おきなわ」に申し訳ない!かと言って、一方では、下手な理解者、シンパではありたくない(そういう人達も多い?)!そう思って生きてきたわけですが、そういうことに対する、自分自身の「総括」が出来ていない?否、まだそうしてはいけない?そういうところで、今の自分がいる?そういうことですかね?!

D : まさに、「やまとんちゅ」(本当は、こうした括り方をして欲しくないのだが!「やまと」とて、多種多様な様相がある!)としての一つのスタンス、つまり「懺悔と優しさ」、そして、そこから『おきなわ』のために」ということが出てきていたのでしょうか、しかし、途中からそのスタンスがおかしくなった?したがって、懐かしいだけの「思い出」にはならない?そこに、自分自身の苛立ちがある?!

I : でも、そうした中で、自分(達?)は、何と言われようとも、沖縄での生活人であり続け、それを立ち位置として、生きてきた(仕事をしてきた)!そういうことでもあるのですよね?!

D : まあ、そういうことでしょうか?!そんな中で、ここでは最後になりますが、私は、この「おきなわ」に対しては、ある一つの内なる命題を準備しています!それは、「怨念の連鎖をいかに解きほぐせるか?!」ということですが、これを語るには、今は、まだまだ早いでしょうね(余計なことであるが、このことは、過日の衆議院議員選挙の結果とも関係している?)?!

(一応、このシリーズ了)